

めじろむつみクラブ（MMC）会報

【第20号】 2011年（平成23年）4月29日発行

特定非営利活動法人（NPO）
めじろむつみクラブ（MMC）事務局
住所：八王子市めじろ台2-37-12
tel：080-1038-6875
<http://www.hachioji-mmc.com/>

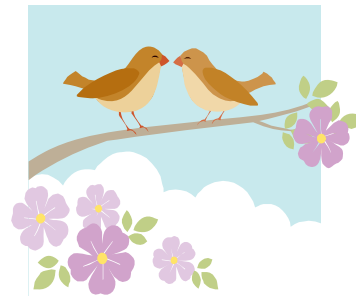
去る3月11日、東日本を襲った歴史的巨大なる惨事は多くの犠牲者を呑み込み、一瞬にして肉親を失った方々を始め全てを無くされた方々を思うとお慰めのしようもありません。ここにMMC会員の皆様と共に心からお見舞いとお冥福をお祈り申し上げます。

MMCとして何かお役に立てないかと運営委員会で協議しました。その結果、会員一同の気持ちとして、ささやかですが義援金を贈ることにしました。過日、日頃お世話になっている八王子市役所協働推進部を通してお届けし、謝意を頂きました。

日本全体が物心両面で支え合い、将来を見据えた立派な復興が成りますよう祈念致します。

MMCは22年度もお陰様で家事支援など、有償作業件数も計画予算の119%を達成致しました。ご支援ご協力に深謝致します。

本年度も地域に安心して任せられ信頼されるMMCとして、ご期待に添うよう努力致します。どうぞよろしく願い申し上げます。（理事長 高橋光男）



1. 22年度作業の状況

（1）生活支援事業

22年度 作業件数は113件（前年度83件）、件数でも金額面でも年初計画の126%と目標を大幅に突破しました。

昨年は例年に無い猛暑の中、熱中症対策を十分に実施しながら作業した結果、一人の故障者もなく、無事作業を完了しました。

作業の比率としては植木剪定54.2%、その他が45.8%で、家屋内外の小規模工事が例年に無く増加しました。

（2）地域交流事業

1）有償作業

作業箇所は延べ27件（前年は30件）です。

金額面では年初計画の96.5%でした。今回も各町会を通しての草刈・処分、会館棚囲い設置（右写真）、めじろ台祭りの手伝い、不在地主からの植木剪定作業などです。

2）イベント

7月にはコンサート、11月中旬に「趣味の作品展」、12月初旬に落語公演、3月初旬には歴史講演会を八王子自治研究センターの助成金及び自費によりいずれも好評のうちに実施しました。



2. 22年度の広報活動

昨年12月、JR八王子駅南口に市民ホールを含めた高層ビルが新築され、市の総合事務所が開設されました。そのロビーに21年度市民企画事業で補助金を頂いたグループとして事業の内容や会のPRを展示しました（右上写真）。会報17、18、19号を発行し、ホームページにも掲載しました。

八王子市民活動協議会の一員として多くの集いに参加し、会のPRを行いました。

3. 講演会 「なぜ八王子は空襲されたのか？」

— 歴史講演会第2弾、好評裡に終わる —

- ・日時 : 平成23年3月6日(日) 13:30~15:15
- ・場所 : めじろ台第一会館
- ・講師 : 都立南多摩高校教諭 八王子市市史編集専門部会
近現代部会委員 齊藤 努 先生
- ・入場料 : 300円 (入場者54名)
- ・狙い : 今年は太平洋戦争開戦70年。また八王子が空襲されてから66年目を迎え、終戦間近の1945年6月17日から始まった地方中小都市への空襲、その中でなぜ八王子が空襲されたのか、改めて検証する。



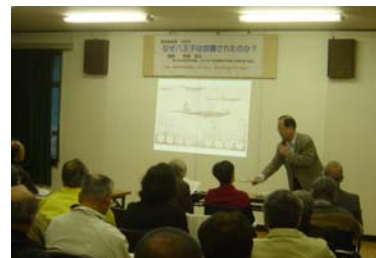
概要

(1) 八王子が空襲を受けた理由

- ① 当時、多摩地区随一の都市であったこと。市の住民は6~7万人、これに軍需工場の労働者、疎開者を入れると8万人ほどの一大住宅地であった。
- ② JR八王子駅が東日本の鉄道交通の要となっている。ここを破壊すれば東京を孤立化させることができる。(これは米国の思惑違い)

(2) 8月2日の八王子空襲の特色

- ① 予告された奇襲であった。
- ② 主目標を鉄道と人口密集地においた。
- ③ M50という極めて貫通力の強い焼夷弾が大量に投下された。
- ④ 空爆から3ヶ月後に米国戦略爆撃調査団による火災調査がなされた。
- ⑤ 多摩における唯一の中都市空襲であった。
- ⑥ この日は米陸軍航空軍の創立記念日で、それを祝って行われた。



(3) ティニアン島西飛行場を発進したB29 169機によって落とされた焼夷弾の多くは「M17集束焼夷弾」と呼ばれるもの。M50小型エレクトロンという焼夷弾を110本集束し、上空でばら撒くもので、貫通力の極めて強い弾だった。落とされた焼夷弾は合計67万個(1,600トン)に及んだ。

(4) 第1弾は万町中山精麦所付近に落下。時速330km、高度4500~4900mからの投下だったが、投弾地直下は現在のめじろ台付近で、放物線を描いて万町へ着弾した。

(5) 八王子においては、市、市教委をはじめ、各分野の関係者の尽力により、空襲の調査、研究が早くから、それも厳密になされている。現在では米軍資料の調査、研究に力点がおかれている。日米双方の資料、体験記などにより立体的分析が今後必要となる。

概要は以上ですが、参加者の多くから「パワーポイントによる分かりやすい講演だった」との声を聞いており、歴史物第2弾も好評だったと思われる。
(講座開催事業担当)

4. 歴史講演会「なぜ八王子は空襲されたのか」を聴講して

八王子大空襲があった昭和20年8月、私は26歳、今でも「山田の森」と言われている中野上町に住んでいた。八王子に空襲があるとの知らせで屋敷内に防空壕を掘り、あわてて避難した。警報の鳴り響く中、近所の人たちが大勢我が家の庭に逃げ込んできた。近くに爆弾が落ち、運悪く一人が直撃を受け亡くなった。外があまりに明るいので暫くして外に出たら、辺り一面、空が真っ赤！恐ろしさで体が震えて立っていられなかった。数日後市内に出たら焼夷弾でほとんどの家が焼かれ、全くの焼け野原で見る影もなかった。本当にこんなことがあって良いものかと、戦争の惨たらしさを実感した。
河津泰子(92歳)

5. 新会員の紹介

23年度に入り3名が入会されました。(4月15日現在)
会員総数は152名になりました。